



— 女性の力で災害に強いまちづくり —

女性消防分団が発足

筑西市消防団女性分団の発団式が、8月1日に市役所で行われ、市消防団の飯泉信団長から女性分団員20人に辞令が交付されました。女性分団員のみなさんは今後、女性の立場から防火活動の啓発や災害時の後方支援などを行うこととなります。

今回発足した女性消防分団員20人は、公募によって集まりました。女性消防分団の発足は、独立した分団としては、県西地域で初めてとなります。

団員の年齢は20歳から50歳まで、大学生や会社員、看護師、主婦などさまざまな職業の人たちで構成されています。発団式で富山省三市長は「女性の持つやさしい笑顔をいかして、災害に強いまちづくりに貢献してください」と激励しました。

女性分団は消防団長直轄の分

団として位置づけられます。団員は、男性団員のように火災現場などの最前線で活動することではなく、一人暮らしの高齢者宅を訪問し、台所の安全点検や火災報知器の普及活動など、火災予防活動を展開していきます。また、「応急手当普及指導員」の資格を取得して、小中学校や自治会などを対象に講習会なども開催していきます。水防訓練や防災訓練、火災予防運動などの主要な行事にも参加し、防災の啓発にあたります。



猛暑の中、女性消防団のみなさんは、筑西広域消防本部で「訓練礼式」などの基礎教育を受けました。



女性消防団分団長に就任した
すとう めぐみ
須藤 恵美さん (28歳・栗島)

現在は、結婚して主婦業に専念していますが、以前会社勤めていたときに、会社の消防隊に所属していました。そのときに、防火・防災意識の大切さを学びました。今回「女性消防団員募集」の記事を目にして、今度は地域のために力になりたいと思いました。また、私の父も消防団で活動しています。その影響があるかもしれませんね。

8月1日に、飯塚団長さんから女性消防分団の分団長の辞令を受け、とても責任を感じています。まずは20人の仲間が一つの輪になれるよう、良い緊張感を持って、楽しみながら活動していきたいと思います。

女性の立場から「やさしさ」「思いやり」の心をいかして、地域のためにがんばります。

また、私たち女性消防団員は、男性団員のように現場などの最前線で活動することはできませんが、女性の立場からできることをやりたいと考えています。

例えば、小中学校などで応急手当の講習会を開催したり、一人暮らしの高齢者宅を訪問して、火の取扱いを指導しながら、地域のどこに誰が住んでいるのかを調べたり、女性ならではの優しいイメージをいかして活動していきます。

一日も早く地域に深く溶け込んで、みなさんのお役に立ちたいと思います。

災害に強いまちづくり

避難所に かまど 井戸 照明 を整備



【簡易井戸】手動式のポンプを設置しました。

市では、災害発生時の避難所となる小学校に防災施設の整備を進めています。今年度は、川島小学校と大村小学校に簡易給食設備（かまど）、簡易井戸、照明器具をそれぞれ整備しました。

簡易給食施設は、平常時はベンチとして利用することができ、災害時には、かまどとテーブルに分離して使うことができます。簡易井戸は、東屋あずまやの中に手動式のポンプを設置しました。災害時の生活用水として利用できます。照明設備は、停電でも安心な太陽光と風力発電を利用した街頭型のです。避難者の精神的苦痛の軽減を主な目的にしています。



【簡易給食施設（かまど）】平常時はベンチとして利用できます。



【照明】太陽光と風力発電を利用